

**問1** 問題の文章をもとに、18世紀のスウェーデンにおける農業や貿易等をめぐる課題はどのようなものか、また現代におけるそれはどのようなものか、150字以内でまとめなさい。

**<解答例>** 18世紀には、農業生産性を高め、食料の自給力を向上させ、高価な輸入品の量を減らすことが課題であった。現代においては、農業従事者は大幅に減ったものの食品関連の仕事や技術によって自給が可能になった。しかし、生産には化石燃料や人口肥料に頼らざるをえず、その上多くの食料品が輸入されていることが課題である。(148字)

**問2** 下の図は、日本における牛肉の国内生産量と輸入量および自給率の推移を表している。問題の下線の文章と下の図をふまえ、日本における牛肉の需給について250字以内で説明しなさい。

**<解答例>** 高度経済成長期以降の食生活の洋風化とともに、牛肉の消費は増加の一途をたどった。国内生産での肉牛生産は飼料の大部分を輸入に頼り、生産費が高くなる。一方、アメリカなど海外で肉牛は輸出用に大規模に生産され、生産費も低い。そのため輸入自由化以降の1990年代には、輸入が国内産を上回るようになった。国産に比べて安価な輸入牛肉は一般家庭や外食産業の低価格志向とも合致し、牛肉の自給率は40%前後で推移している。なお高級和牛や地域ブランドなど市場価値を高めた国産牛を中心に、国内生産は一定水準を維持している。(244字)

**問3** 問題の文章をふまえ、日本の食料需給の在り方について、持続可能性の観点から、400字以内で述べなさい。

**<解答例>** 日本では、米を除く穀物などの大半を輸入に依存している。輸入自由化や関税率低下などにより海外の農産物や食料品の輸入が増加し、食糧自給率は欧米諸国に比べて大幅に低い。輸入時の輸送や生産国における生産に伴う二酸化炭素の排出などによる環境への負荷は、生産国及び地球規模での環境悪化に無関係ではない。また世界的な人口増加や異常気象、紛争や不測の事故等など世界の食糧需給の不安定さが増しており、食糧を輸入に依存することは安全保障上も問題である。一方、米の消費の減少は止まらず、国土保全の役割も果たしていた水田の転用や耕作放棄地の増大は、農業の生産基盤が弱体化ばかりでなく、生態系の変化や災害多発の誘因となっている。また海外からの安価な農産物や食料品は国内の生産を圧迫し、自給率の低下に拍車をかけている。社会、経済、環境いずれの持続可能性においても、食糧の国内生産を増やし自給率を上げていくことが必要である。(397字)